



## 業界ニュース

### 全世界で目指す、持続可能な開発目標「SDGs」

近年のグローバル経済の発展に伴い、地球規模で気候変動、自然災害、感染症などの課題が発生し、経済成長や社会問題にも深刻な影響を及ぼす時代に入っています。このような中、世界では先進国も開発途上国も含めた国々が、地球規模の課題解決の目標を掲げ合意した「SDGs」（エスディーゼイズ）の存在があります。今回は、この「SDGs」の概要や日本の進捗度などを解説します。

#### SDGs (Sustainable Development GOALS) とは

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です。2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193ヶ国がそれぞれに、2016年～2030年の15年の間に世界を変えるための17のゴールと、それぞれのゴールに対する計169のターゲットが国際目標として合意されました。そして、「地球上の誰一人として取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. 貧困      | 10. 不平等   |
| 2. 飢餓      | 11. 都市    |
| 3. 保健      | 12. 生産・消費 |
| 4. 教育      | 13. 気候変動  |
| 5. ジェンダー   | 14. 海洋資源  |
| 6. 水・衛生    | 15. 陸上資源  |
| 7. エネルギー   | 16. 平和    |
| 8. 成長・雇用   | 17. 実施手段  |
| 9. イノベーション |           |

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



出典：国際連合広報センター

[http://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/](http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/)

#### SDGsの特徴

SDGsで取り上げられている課題は、途上国の開発を促すような、ただ経済を成長させれば解決するものばかりではありません。例えば、経済成長により貧困を解決するだけでなく、不平等や格差、及び環境面、社会面をも含んだ課題をも解決しなければならないと示唆しています。また17のゴールのうちの「13.気候変動」は地球温暖化に関わる課題です。国連開発計画UNDP<sup>(\*1)</sup> 駐日代表事務所は、このゴールについて「内陸国や島嶼国<sup>(\*2)</sup>など、影響を受けやすい地域の強靱性と適応能力を強化する一方で、意識を高め、国の政策や戦略に気候対策を盛り込む取り組みも必要」と述べています。

(\*1) UNDP：国連開発計画

(\*2) 島嶼国：島々から構成されており、大陸から距離が離れていることから開発上、困難を有する開発途上国のこと。

#### 世界と日本の進捗度

SDGsは開発途上国だけでなく、先進国自身が取り組むユニバーサルなものです。持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN) が2017年7月に発表したSDGsへの取り組みの進捗度を比較したランキングによると、日本は157ヶ国中11位という結果になりました。

日本は「4.教育」「8.成長・雇用」「9.イノベーション」に関しては高く評価されたものの、「5.ジェンダー」「12.生産・消費」「13.気候変動」「15.陸上資源」「17.実施手段」の評価が低い結果となっています。特に「13.気候変動」について評価が低かった項目には「エネルギー関連のCO2排出量」もありました。

世界全体を見渡してみると、1位はスウェーデンで、「1.貧困」「3.保健」「4.教育」「7.エネルギー」への取り組みが高く評価されました。2位以下はデンマーク、フィンランド、ノルウェー、チェコ、ドイツ、オーストリア、スイス、スロベニア、フランスとなっています。

#### 今後の課題と期待

今、世界的に地球環境が危機的状況に直面していることは周知の事実です。地球温暖化、生物多様性、森林保全などの問題は日に日に悪化しています。こうした状況に対し、従来の大量生産・消費への問い直しが迫られており、その解決策が模索され続けています。一方で、世界経済はますます膨れ上がり、各国における貧富の格差や資源枯渇、環境悪化は深刻化しています。このような地球規模の課題を包括するSDGsにおいて、各国が抱えるそれぞれの課題に対する取り組みに期待が高まっています。

## トレイン 最新情報

### 世界の社会的責任投資の指標銘柄に7年連続で選定～ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス～

トレインが一翼を担うコングロマリット（複合企業体）インガソール・ランドが、このたび世界の社会的責任投資の指標銘柄「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（DJSI）」に7年連続で選定されました。

#### 世界的ESGインデックス「DJSI」に選定

2017年9月、快適、持続的、効率的な環境を創造する世界的リーダーである複合企業インガソール・ランドは、世界的なESGインデックスである「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（DJSI）」の、先進国・新興国双方を対象とした「DJSI World」と、北米地域を対象とした「DJSI North America」に7年連続で選定されました。

DJSIは、S&P ダウ・ジョーンズ社とRobecoSAM社との協力により、1999年に始められた世界的な持続可能性の指標です。投資銘柄の持続可能性を測る投資家向けのベンチマークとして、また、持続可能性に向けたベストプラクティスを目指す企業に対する効果的な情報提供のプラットフォームとして定着しています。

インガソール・ランドがこの世界的指標に7年連続で選定されたことは、数ある企業の中で、経済、環境及び社会的責任分野のリーダーとして、継続的に位置付けられていることが明確に示されたこととなります。

#### インガソール・ランドが目指すもの

インガソール・ランドの製品とサービスは、建物の冷暖房、設備の自動化による生産性の向上、及び、生鮮食品を含む食品を新鮮に保ちつつ、安全に、効率よく信頼性の高い輸送を実現するためのソリューションです。イノベーション、持続可能性、社会的貢献に関する長期コミットメントに裏付けされた私たちのビジネスは、より良い世界の実現を目指しています。

インガソール・ランドのマイケル W. ラマーCEOは、今回のDJSIにおける選出を受け、次のコメントを発表しています。



「DJSIに7年連続で選出されたことは、私たちにとって、良い業績よりも意義深いことです。私たちには、生活や仕事といった、人々の行動に影響を及ぼす緊急性の高いグローバルな傾向を予測し、対応する責任があります。そのため、私たちのビジネスは社会と環境の持続可能性の実現には何をどのように行う必要があるかを考え実行しています。」

7年間連続でDJSIに選出されたことは大変光栄なことであり、私たちが世界へもたらした長年に渡る活動が評価されていることの現れだと思えます。」



インガソール・ランド (Ingersoll Rand, ニューヨーク証券取引所上場, NYSE:IR) は、快適・持続可能・効率的な環境を創出することで、お客様の生活の質の向上を目指しています。クラブカー (Club Car®)、インガソール・ランド (Ingersoll Rand®)、サーモキング (Thermo King®)、トレイン (Trane®) らグループ傘下の各ブランドと連携し、住宅・建物内の空気品質と快適性の向上をはじめ、生鮮食品の品質保持と輸送、工業生産力・産業効率の改善などに対し、全社を挙げて取り組んでまいります。グローバル企業として、更なる発展と持続的成果をお約束いたします。



トレイン・ジャパン株式会社

jp.trane.com

ingersollrand.jp

#### 本社

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-5-37 本多電機ビル5F  
 (営業部) Tel. 03-5435-6442 Fax. 03-5435-6440  
 (サービス部) Tel. 03-5435-6443 Fax. 03-5435-6440

#### 大阪事業所

〒577-0848 大阪府東大阪市岸田堂西2-10-28  
 (営業部) Tel. 06-6726-4550 Fax. 06-6224-1271  
 (サービス部) Tel. 06-6726-4563 Fax. 06-6224-1271